原　著

口語英語研究(5)
感謝の表現に関して

木戸　充[1)]・Stuart J. Sanderson[2)]

[1)]日本獣医生命科学大学　英語学教室
[2)]高宮学園　英語科

要　約　本稿は感謝の気持ちを伝える英語の口語表現についての研究論文である。本稿の主題となる主な口語表現は次の(1)(2)(3)(4)に分けられる。thankを用いる口語表現(1)①Thank you./ ②Thank you very much./ ③Thank you so much./ ④Thanks./ ⑤Thanks a lot./ ⑥Kyu.など。この(1)①から⑥などに対する応答として用いられる口語表現(2)①You are welcome./ ②My pleasure./ ③The pleasure is mine./ ④Not at all./ ⑤Don't mention it./ ⑥That's all right./ ⑦Anytime./ ⑧No problem./ ⑨Sure./ ⑩Certainly./ ⑪Uh-huh./ ⑫Thank you.など。kind/ nice/ sweetを用いる口語表現(3)①That's kind of you./ ②That's nice of you./ ③That's sweet of you./ ④You are kind./ ⑤You are nice./ ⑥You are sweet.など。appreciateを用いる口語表現(4)I really appreciate it.など。本稿では(1)(2)(3)(4)の口語表現のニュアンスの違いやそれぞれが使われる具体的な状況について論じている。なお，*口語英語研究(1)(2)(3)(4)*と同様，本稿は英語を母語とする者と日本語を母語とする者の長時間にわたるディスカッションを基にして書かれている[1)]

キーワード：Thank you./ You are kind./ I really appreciate it.

日獣生大研報 **62**，106-119，2013.

1．は　じ　め　に

本稿は現代英語の口語表現に関する研究である。本稿で扱う主題は感謝の気持ちを伝える慣用表現である。

第2章ではthankを用いる(1)①Thank you./ ②Thank you very much./ ③Thank you so much./ ④Thanks./ ⑤Thanks a lot./ ⑥Kyu.など，及び(1)①から⑥などに対する応答となる(2)①You are welcome./ ②My pleasure./ ③The pleasure is mine./ ④Not at all./ ⑤Don't mention it./ ⑥That's all right./ ⑦Anytime./ ⑧No problem./ ⑨Sure./ ⑩Certainly./ ⑪Uh-huh./ ⑫Thank you.などについて論じる。第2章の論点は(1)①から⑥と(2)①から⑫のニュアンスの違いと用いられる状況の違いであり，具体的な事例を見ながら各事例におけるそれぞれの使用の可否を検証する。

第3章では(3)①That's kind of you./ ②That's nice of you./ ③That's sweet of you.と(3)④You are kind./ ⑤You are nice./ ⑥You are sweet.などについて論じる。(3)①から⑥のニュアンスの違いを探るため，それぞれで用いられる形式“You are ～”/“That's ～”，それぞれで用いられる副詞so/ really/ very，それぞれで用いられる形容詞kind/ nice/ sweetのニュアンスの違いを検証する。

第4章では(4)I really appreciate it.について論じている。この表現のニュアンスを探るため，appreciateという動詞の本来の意味，感謝を表す他の表現と組み合わせて用いられるときの効果について検証する。

2．Thank you.やThanks.など

感謝の気持ちを表すとき(1)①Thank you./ ②Thank you very much./ ③Thank you so much./ ④Thanks./ ⑤Thanks a lot./ ⑥Kyu.が使われことがある，また，(1)①から⑥の応答として(2)①You are welcome./②My pleasure./③The pleasure is mine./④Not at all./⑤Don't mention it./⑥That's all right./⑦Anytime./⑧No problem./⑨Sure./⑩Certainly./⑪Uh-huh./⑫Thank you.が使われることがある。この感謝を表す(1)①から⑥はどれも同じように「ありがとう」や「どうもありがとう」などと訳され，これらの応答となる(2)①から⑫はどれも同じように「どういたしまして」などと訳されるが，英語を母語とする者はこれらをどのように使い分けているのだろうか。

(1)①から⑥と(2)①から⑫の基本的な特徴を次の［ref.1］と［ref.2］にまとめる。

［ref.1］Thank you./ Thanks.などの基本的な特徴

①**Thank you.**

「I（私は）you（あなたに）thank（感謝します）」というニュアンス。正式な感謝のことば。Thank you very much.よりも軽い響きがある。

②**Thank you very much.**

Thank you.の強調表現。強い感謝を込めて使われる。Thank you.よりもかたい響きがある。veryに強勢を置いて発音される。

③**Thank you so much.**

Thank you.の強調表現。Thank you very much.よりも感情的でやわらかい響きがある。soに強勢を置いて発音される。女性によって使われることが多い。

④**Thanks.**

「I（私は）you（あなたに）many *thanks*（多くの感謝の気持ちを）give（捧げます）」というニュアンス。Thank you.と同じように軽い感謝を表すが，Thank you.にないくだけた響きがある。家族や親しい友人の同士の会話では親しみを込めてThanks.が使われることが多い。

⑤**Thanks a lot.**

Thanks.の強調表現。Thank you very much.ほどかたくはないが，Thanks.にない落ち着いた響きがある。あらたまって感謝の気持ちを表すときに使われる[2)]。

⑥**Kyu.**

Thank you.の略語。語尾を上げるようにして［キュー］と発音する。イギリス英語。smile（笑顔）をイメージさせる明るく陽気な響きがある。

［ref.2］You are welcome.などの基本的な特徴

①**You are welcome.**

「you（あなたは）are welcome（歓迎されています）」というニュアンス。感謝のことばに対する正式な応答。比較的かたい響きがある。

②**My pleasure.**

「it's（それは）my pleasure（私の喜びです）」の略語。It's my pleasure.と言うこともあるが，My pleasure.の方がやわらかく口語では多く使われる。

③**The pleasure is mine.**

「the pleasure is（その喜びは）my pleasure（私の喜びです）」というニュアンス。ニュアンスはMy pleasure.に似ているが，ずっとかたい響きがある。

④**Not at all.**

「It was *not* any trouble *at all*.（それはまったく面倒でも何でもありません）」というニュアンス。You are welcome.よりも形式的でかたい響きがある。

⑤**Don't mention it.**

このitは言った感謝のことば。「it（それを）don't mention（言わないでください）」というニュアンス。Not at all.に似て形式的でかたい響きがある。

⑥**That's all right.**

「that's（それは）all right（まったく大丈夫です）」というニュアンス。やわらかな響きがあるため家族や親しい友人の間でよく使われる。同じニュアンスでThat's OK.を使うこともあるが，That's all right.より軽い。

⑦**Anytime.**

I'll help you *any time*.（いつでもお手伝いしますよ）というニュアンス。相手を積極的に手助けしようとする気持ちを伝える愛想のいい応答。That's all right.と同様，やわらかい。

⑧**No problem.**

「That's *no problem* for me.（それは私にとって何の問題にもなりません）」というニュアンス。軽くてくだけた響きがある。ここ30年から40年ほどの間に一般的になった表現。初めはアメリカ英語で使われ，後にイギリス英語でも広く使われるようになった。この点で現代的。

⑨**Sure.**

⑩**Certainly.**

アメリカ英語では感謝のことばに対する応答としてSure.やCertainly.が用いられることがある。sureとcertainlyは「確かに」という意味があり，応答のSure.やCertainly.には「はい確かに了解しました」というニュアンスがある。Certainly.の方がかたく形式的な響きがある。

⑪**Uh-huh.**

アメリカ英語で多く使われる。［アハ］と語尾を上げる調子で発音する。Sure.やCertainly.と同様に「（はい）sure（確かに了解しました）」というニュアンスがある。Sure.やCertainly.よりもくだけていて軽い[3)]。

⑫**Thank you.**

Thank you.は本来自分の方から感謝の気持ちを伝えることばだが，感謝のことばへの応答としてThank you.が使われることもある。例えば，相手からThank you.（ありがとう）と言われたときに，Thank you.と応えることがある。この応答のThank you.は「（こちらこそ）Thank you（ありがとうございます）」というニュアンスがあり，「他の誰でもなくyou（あなた）に感謝している」という気持ちが込められているためyouに強勢を置いて発音される[4)]。

以下では具体的な事例を見ながら(1)①から⑥と(2)①から⑫がそれぞれ具体的にどのような状況で使われるのかを検証する。

［ex.1］母親と子供の自宅での会話。母親は家の台所にいて，息子を呼んでいる。

母親：(1) "Tom, would you come over here, please?"

「トム，ここへ来てくれない」
息子：(2) “What'd you like me to do, mum?”
「どうしたの，お母さん」
母親：(3) “Would you get that pot down from the shelf, please? I can't reach it.”
「棚からあのなべを取ってよ。手が届かないのよ」
息子：(4) “Here you are.”
（取ったなべを母親に手渡しながら）「はい」
母親：(5) “*Thanks*, Tom.”
「ありがとう，トム」
息子：(6) “*Anytime*.”
「どういたしまして」

［ex.1］(5)で息子になべを取ってもらった後で母親は息子に“*Thanks*, Tom.”と言っている。これに対して息子は［ex.1］(6)で“*Anytime*.”と応えている。このように，親子の間では気軽で親しみのあるThanks.とAnytime.が組み合わされて使われることが多い。

次の［ref.3］では感謝の気持ちを表す(1)①から⑥が［ex.1］(5)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証している。また，次の［ref.4］では応答の(2)①から⑫が［ex.1］(6)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証している。［ref.3］と［ref.4］において○はそれぞれの場合において自然な表現となること，×はそれぞれの場合において自然な表現とならないこと，△はそれぞれの場合において普通は使われないが話し手の性格や状況のわずかな違いによっては使われることもあることを示している（なお，本稿の［ref.5］から［ref.16］においても使われている記号とそれが表す内容は同様である）。

［ref.3］Thank you.やThanks.などの使用の可否(1)
［鍋を取ってくれた息子に母親が感謝の気持ちを伝える場合］
①○ “*Thank you*, Tom.”
②× “*Thank you very much*, Tom.”
③× “*Thank you so much*, Tom.”
④○ “*Thanks*, Tom.”
⑤× “*Thanks a lot*, Tom.”
家族同士や親しい友人同士の間では軽い感謝の気持ちを普通Thank you.やThanks.で表す。棚から鍋を取るというような些細なことに関してThank you very much./ Thank you so much./ Thanks a lot.で感謝の気持ちを表すのは大げさすぎる。
⑥× “*Kyu*, Tom.”
普通Kyu.は“Tom”のような相手への呼びかけとともに用いることはない。

［ref.4］You are welcome.などの使用の可否(1)
［母親からの感謝のことばに息子が応える場合］
①× “*You are welcome*.”
②× “*My pleasure*.”
③× “*The pleasure is mine*.”
④× “*Not at all*.”
⑤× “*Don't mention it*.”
Thanks.やThank you.には軽い響きがある。その応答としてYou are welcome./ My pleasure./ The pleasure is mine./ Not at all./ Don't mention it.はいずれもかたすぎる。
⑥○ “*That's all right*.”
⑦○ “*Anytime*.”
⑧○ “*No problem*.”
親子の間ではThat's all right./ Anytime./ No problem.が使われることが多い。いずれも気軽な応答だが，特にNo problem.にはくだけた響きがある。
⑨○ “*Sure*.”
⑩○ “*Certainly*.”
⑪○ “*Uh-huh*.”
アメリカ英語では［ex.1］(6)のような状況でSure./ Certainly./ Uh-huh.が使われることがある。Certainly.にはかたい響き，Uh-huh.にはくだけた響きがある。
⑫× “*Thank you*.”
相手のために棚から鍋を取るという行為は自分にとって利益になるようなことではない。したがって［ex.1］(6)で「（こちらこそ）Thank you（ありがとうございます）」と応えるのは不自然。

［ex.2］小学校の教師Miss Collinsと小学生Jimの学校での会話。教室にいるJimを見つけてMiss Collinsが声をかけているところ。
Miss Collins：(1) “Jim.”
「ジム」
Jim：(2) “Yes, Miss Collins.”
「はい，コリンズ先生」
Miss Collins：(3) “Didn't you lose something today?”
「今日，何かなくさなかった？」
Jim：(4) “Well, I don't know. I don't think I did.”
「えーと，わかりません。なくしてないと思いますけど」
Miss Collins：(5) “This is your pencil case, isn't it? Your name's on it.”
（手に持っていた筆箱をJimに見せながら）「これはあなたの筆箱よね「これはあなたの筆箱よね。あなたの名前が書いてあるわよ」
Jim：(6) “Oh, yes. This is mine.”
「ああ，そうです。僕のです」
Miss Collins：(7) “I found it in the music room.”
「音楽室で見つけたのよ」
Jim：(8) “*Thank you very much*, Miss Collins.”
「ありがとうございます，コリンズ先生」
Miss Collins：(9) “*You are welcome*.”

「どういたしまして」

［ex.2］(8)では筆箱を見つけて持ってきてくれたMiss Collinsに小学生のJimが“*Thank you very much*, Miss Collins.”と言っている。これに対して教師のMiss Collinsは“*You are welcome.*”と応えている。このように小学生と教師の間では正式で礼儀正しいThank you very much.とYou are welcome.が組み合わされて使われることが多い。

次の［ref.5］では感謝の気持ちを表す(1)①から⑥が［ex.2］(8)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。また，次の［ref.6］では応答の(2)①から⑫が［ex.2］(9)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。

［ref.5］Thank you.やThanks.などの使用の可否(2)
［自分の筆箱を見つけてくれた教師に小学生が感謝の気持ちを伝える場合］

①△“*Thank you*, Miss Collins.”

②○“*Thank you very much*, Miss Collins.”
小学生が教師に感謝を表す場合には，教師への敬意を込めて正式なThank you very much.が普通使われる。［ex.2］(8)のような状況で小学生が教師にThank you.とだけ言うなら，一般に礼儀に欠けた小学生とみなされる。

③△“*Thank you so much*, Miss Collins.”
Thank you so much.は女性によって使われることが多い。話し手が女子の小学生なら［ex.2］(8)のような状況でThank you so much.を使うことも考えられる。

④×“*Thanks*, Miss Collins.”

⑤×“*Thanks a lot*, Miss Collins.”

⑥×“*Kyu*, Miss Collins.”
Thanks./ Thanks a lot./ Kyu.には軽い響きがある。このような軽いことばを小学生が教師に使うことは一般にない。

［ref.6］You are welcome.などの使用の可否(2)
［小学生からの感謝のことばに教師が応える場合］

①○“*You are welcome.*”
一般に教師は小学生に対して礼儀正しい話し方をする。［ex.2］(8)のような状況では教師は正式なYou are welcome.を使うことが多い。

②×“*My pleasure.*

③×“*The pleasure is mine.*”

④×“*Not at all.*”

⑤×“*Don't mention it.*”
My pleasure./ The pleasure is mine./ Not at all./ Don't mention it.はいずれも大人同士の会話で使われる儀礼的な応答。普通は子供に対して使うことはない。

⑥○“*That's all right.*”
That's all right.は親しい者の間で使われるやわらかい応答。教師が小学生に対して使えばやさしい響きの応答になる。

⑦△“*Anytime.*”

⑧△“*No problem.*”
That's all right.と同じようにAnytime.やNo problem.にはやわらかい響きがあるが，教師が小学生に対して使う応答としては少しくだけすぎ。ただし，率直な話し方を好む教師である場合には［ex.2］(8)のような状況でThat's all right.やNo problem.を使うことも考えられる。

⑨○“*Sure.*”

⑩○“*Certainly.*”

⑪○“*Uh-huh.*”
アメリカ英語では［ex.2］(8)のような状況でSure./ Certainly./ Uh-huh.が使われることがある。特に教師が使うことばとしてはUh-huh.にくだけた響きがある。

⑫×“*Thank you.*”
相手の筆箱を見つけて相手に返すという行為は自分にとって利益になるようなことではない。したがって［ex.2］(8)で「(こちらこそ) Thank you（ありがとうございます)」と言うのは不自然。

［ex.3］夫婦の自宅での会話。夕方，妻のCindyより早く帰宅した夫のDavidが夕食を作っている。そこに妻のCindyが帰ってきたところ。

Cindy：(1)“I'm home, David. How are you doing?”
「ただいま，ディビッド。元気？」

David：(2)“Not bad, Cindy.”
「元気だよ，シンディー」

Cindy：(3)“Oh, are you doing the cooking for me?”
「あら，食事を作ってくれているの？」

David：(4)“Yeah, I knew I'd be back earlier than you, so I thought I should get dinner ready.”
「君より早く帰るのがわかっていたから，僕が夕食の支度をした方がいいだろうなって思ったんだ」

Cindy：(5)“Oh, *thank you so much*, David.”
「あら，ありがとう，ディビッド」

David：(6)“*My pleasure*, Cindy. Actually, I haven't done much cooking lately, but I'm really enjoying it.”
「どういたしまして，シンディー。実際，最近はあんまり料理をしていなかったけど，本当に楽しいんだ」

［ex.3］(5)では妻のCindyが早く家に帰って夕食の用意をしてくれていた夫のDavidに“Oh, *thank you so much*,

David.”と言っている。このThank you so much.にはCindyの強い感謝が込められている。

これに対して［ex.3］(6)で夫は“*My pleasure*, Cindy.”と応えている。この応答には夕食を作ることがmy pleasure（自分の喜び）であるというニュアンスが込められている。このニュアンスはその後の夫のことば“Actually, I haven't done much cooking lately, but I'm really enjoying it.”（実際，最近はあんまり料理をしていなかったけど，本当に楽しいんだ）という発話の内容に合ったものになっている。

次の［ref.7］では感謝の気持ちを表す(1)①から⑥が［ex.3］(5)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。また，次の［ref.8］では応答の［ref.2］の①から⑫が［ex.3］(6)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。

［ref.7］Thank you.やThanks.などの使用の可否(3)
［夕食の準備をしている夫に妻が感謝の気持ちを伝える場合］

①○“Oh, *thank you*, David.”
本来Thank you.はThank you so much.ほど強い響きはないが，［ex.3］(5)のような状況では言い方や表情次第で強い響きが込められることもある。

②×Oh, *thank you very much*, David.”
正式なThank you very much.にかたい響きがあるため，［ex.3］(5)のような夫婦の会話では普通使われることない。

③○“Oh, *thank you so much*, David.”
妻が夫に強い感謝の気持ちを表す場合，やわらかく感情的なThank you so much.が使われることが多い。

④○“Oh, *thanks*, David.”
Thank you.と同じように，Thanks.自体は強い感謝を表すことばではないが，［ex.3］(5)のような状況では言い方や表情次第で強い感謝の気持ちが込められることもある。

⑤×“Oh, *thanks a lot*, David.”
Thank a lot.にはあらたまった響きや落ち着いた響きがある。そのため，一般に一緒に暮らす夫婦が日常の会話でThanks a lot.を使うことはない[5)]。

⑥×“Oh, *kyu*, David.”
一般に，Kyu.は強い感情を込めたohなどの間投詞やTomなどの相手への呼びかけとともに使われることはない。

［ref.8］You are welcome.などの使用の可否(3)
［妻からの感謝のことばに夫が応える場合］

①○“*You are welcome*, Cindy.”
一般に，かたい響きのあるYou are welcome.が夫婦の間で使われることは多くない。ただし，［ex.3］(5)のように相手がThank you so much.などを使って強い感謝の気持ちを表した場合には，相手の強い気持ちに応えるために夫婦の間でYou are welcome.が使われることもある。

②○“*My pleasure*, Cindy.”

③×“*The pleasure is mine*, Cindy.”
My pleasure.とThe pleasure is mine.は似た表現ではあるが，前者には夫婦の間で使われるほどのやわらかさがあり，後者には夫婦の間で使われるほどのやわらかさはない。

④×“*Not at all*, Cindy.”

⑤×“*Don't mention it*, Cindy.”
Not at all.とDon't mention it.はどちらもかたい響きがあり，どちらも夫婦同士の会話で使われることは一般にない。

⑥○“*That's all right*, Cindy.”

⑦○“*Anytime*, Cindy.”

⑧○“*No problem*, Cindy.”
夫婦同士の会話ではやわらかい響きのあるThat's all right./ Anytime./ No problem.が使われることは多い。

⑨○“*Sure*, Cindy.”

⑩○“*Certainly*, Cindy.”

⑪○“*Uh-huh*, Cindy.”
アメリカ英語を話す夫婦では感謝のことばに対してSure./ Certainly./ Uh-huh.で応えることも多い。

⑫×“*Thank you*, Cindy.”
相手のために食事を作るという行為は自分にとって利益になるようなことではない。したがって［ex.3］(6)で「(こちらこそ)Thank you(ありがとうございます)」と応えるのは不自然。

［ex.4］親しい友人同士であるSteveとKarenのレストランでの会話。SteveとKarenは食事を終えてレストランを出ようとしている。

Steve：(1)“Fred, let me take care of this today.”
「フレッド，今日は僕に払わしてよ」

Karen：(2)“Well, are you sure?.”
「え，本当に？」

Steve：(3)“Yeah. You got it last time. It's my turn.”
「この前は君がおごってくれたからね。僕の番だよ」

Karen：(4)“*Thanks a lot*, Steve.”
「どうもありがとう，スティーブ」

Steve：(5)“*Don't mention it*, Karen.”
「どういたしまして，フレッド」

［ex.4］(4)ではFredが食事代を払おうとしているSteveに“*Thanks a lot*, Steve.”と言っている。これに対して［ex.4］(5)でSteveは“*Don't mention it*, Karen.”と応えている。このように，Thanks a lot.は親しい友人などに対してあら

たまって強い感謝の気持ちを伝えるときに使われ，Don't mention it.は親しい友人に対してあらたまった気持ちを込めて応答するとき使われる。

次の［ref.9］では感謝の気持ちを表す(1)①から⑥が［ex.4］(4)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。また，次の［ref.10］では応答の(2)①から⑫が［ex.4］(5)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。

［ref.9］Thank you.やThanks.などの使用の可否(4)
［食事代を払ってくれる親しい友人に感謝の気持ちを伝える場合］

①○ "*Thank you*, Steve."
［ex.4］(4)のような状況でThank you.と言えば，親しい友人に対して気軽に感謝の気持ちを伝えていることになる。

②○ "*Thank you very much*, Steve."
親しい友人に対して正式なThank you very much.を使えば，かなりあらたまって感謝の気持ちを伝えていることになる。

③○ "*Thank you so much*, Steve."
親しい友人に対して女性が強い感謝の気持ちを伝えるときには，やわらかく感情的なThank you so much.が使われることが多い。

④○ "*Thanks*, Steve."
親しい友人に対しては親しみを込めてThanks.がよく使われる。この場合，Thank you.よりも気軽に感謝の気持ちを伝えていることになる。

⑤○ "*Thanks a lot*, Steve."
Thanks a lot.は［ex.4］(4)のように親しい人にあらたまって深い感謝の気持ちを伝えるときに使われる。

⑥× "*Kyu*, Steve."
一般にKyu.はSteveなどの相手への呼びかけとともには用いない。

［ref.10］You are welcome.などの使用の可否(4)
［親しい友人からの感謝のことばに応える場合］

①○ "*You are welcome*, Karen."

②○ "*My pleasure*, Karen."

③× "*The pleasure is mine*, Karen."

④○ "*Not at all*, Karen."

⑤○ "*Don't mention it*, Karen."
親しい友人からあらたまって感謝のことばを言われた場合には，あらたまった響きのあるYou are welcome./ My pleasure./ Not at all./ Don't mention it.で応えることがある。The pleasure is mine.は親しい友人に対して使うにはかたすぎる。

⑥○ "*That's all right*, Karen."

⑦○ "*Anytime*, Karen."

⑧○ "*No problem*, Karen."

⑨○ "*Sure*, Karen."

⑩○ "*Certainly*, Karen."

⑪○ "*Uh-huh*, Karen."
親しい友人に対してはThat's all right./ Anytime./ No problem./ Sure./ Certainly./ Uh-huh.で応えることもある。That's all right./ Anytime./ Sure.にはやわらかい響き，Certainly.にはかたい響き，No problem./ Uh-huh.にはくだけた響きがある。

⑫× "*Thank you*, Karen."
相手の食事代を払うという行為は自分にとって利益になるようなことではない。したがって［ex.4］(5)で「(こちらこそ) Thank you（ありがとうございます)」と応えるのは不自然。

［ex.5］雑貨店のレジでの会話。客がレジ係りの店員に商品の代金を払ってお釣りをもらっているところ。

店員：(1) "Here is your change."
（お釣りを渡しながら）「はい，お釣りです」

客：(2) "*Thank you*."
（お釣りを受け取って）「どうも」

店員：(3) "*Thank you*, sir."
「どうもありがとうございました」

［ex.5］(2)では客がお釣りを渡してくれた店員に"*Thank you*."と言っている。これに対して［ex.5］(3)で店員は"*Thank you*, sir."と応えている。

このようにThank you.は自分の方から感謝の気持ちを伝えるときだけでなく，感謝のことばに応じるときに使われることもある。この応答のThank you.には「(こちらこそ)thank you（ありがとうございます)」というニュアンスがあり，「お役に立ててうれしいです」という気持ちを込めて使われる。この応答のThank you.は主に商店やレストランなどで店員やウェイターなどが客に応じるときに使われる。

次の［ref.11］では感謝の気持ちを表す(1)①から⑥が［ex.5］(2)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。また，次の［ref.12］では応答の(2)①から⑫が［ex.5］(3)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。

［ref.11］Thank you.やThanks.などの使用の可否(5)
［お釣りを渡してくれた店員に客が感謝の気持ちを伝える場合］

①○ "*Thank you*."

②○ "*Thank you very much*."

③× "*Thank you so much*."

④○ "*Thanks*."

⑤○ "*Thanks a lot*."

⑥○ "*Kyu*."

客が店員にThank you./ Thanks./ Kyu.と言えば軽い感謝の気持ちを表すことになり，客が店員にThank you very much./ Thanks a lot.と言えば丁寧に感謝の気持ちを伝えていることになる。Thank you so much.はThank you very much./ Thanks a lot.よりも感情的で強い響きがあるため，お釣りを渡してくれただけの店員に対して使うのはおおげさすぎる。

［ref.12］You are welcome.などの使用の可否(5)
［客からの感謝のことばに店員が応える場合］
①○ “*You are welcome*, sir.”
②○ “*My pleasure*, sir.”
③○ “*The pleasure is mine*, sir.”
④○ “*Not at all*, sir.”
⑤○ “*Don't mention it*, sir.”
⑥○ “*That's all right*, sir.”
⑦○ “*Anytime*, sir.”
⑧○ “*No problem*, sir.”
⑨○ “*Sure*, sir.”
⑩○ “*Certainly*, sir.”
⑪× “*Uh-huh*, sir.”
⑫○ “*Thank you*, sir.”
店員が客にYou are welcome./ My pleasure./ The pleasure is mine./ Not at all./ Don't mention it./ Certainly./ Thank you.を使えば礼儀正しい応答になり，店員が客にThat's all right./ Anytime./ No problem./ Sure.を使えばやわらかな応答をしていることになる。店員が客にUh-huh.を使うのはくだけすぎ。

本来Thank you.は感謝の気持ちを伝えることばだが，相手からの申し出を受け入れるときや断るとき，相手に何らかの行為を求めるとき，相手を強く非難するときなどに使われることもある。

［ex.6］ウェイトレスと客のレストランでの会話。ウェイトレスが客にコーヒーのお代わりをすすめているところ。
ウェイトレス：(1) “Would you like some more coffee, sir?”
「コーヒーはいかがですか」
客：(2) “*Thank you*.”
「ありがとう」
ウェイトレス：(3) “Here you are.”
（コーヒーを注いでから）「はい，どうぞ」

［ex.6］(2)で客はコーヒーのおかわりをすすめてくれたウェイトレスに“*Thank you*.”と応えている。このThank you.は相手からの申し出を受け入れることを示すことばであり，Yes, please.（はい，お願いします）と同じ内容を表している。ただし，このThank you.はThank you for offering me some coffee.（私にコーヒーのお代わりを申し出てくれてありがとう）という感謝の気持ちが込められるため，Yes, please.と応えるときよりも丁寧な応答になる。

次の［ref.13］では感謝の気持ちを表す(1)①から⑥が［ex.6］(2)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。

［ref.13］Thank you.やThanks.などの使用の可否(6)
［コーヒーのおかわりの申し出を受け入れる場合］
①○ “*Thank you*.”
②○ “*Thank you very much*.”
③× “*Thank you so much*.”
④○ “*Thanks*.”
⑤× “*Thanks a lot*.”
⑥○ “*Kyu*.”
コーヒーのおかわりの申し出を受け入れるとき，Thank you./ Thanks./ Kyu.で応えれば気軽な返事をしていることになり，Thank you very much.で応えれば丁寧な返事をしていることになる。コーヒーをもらう意思があることを示す返事としてThank you so much./ Thanks a lot.は大げさすぎる。

［ex.7］レストランでのウェイトレスと客の会話。ウェイトレスが客にコーヒーのお代わりを申し出ているところ。
ウェイトレス：(1) “Would you like some more coffee, sir?”
「コーヒーのおかわりはいかがですか」
客：(2) “*Thank you*. I'm just fine.”
「結構です。もう十分です」

［ex.7］(2)でコーヒーのお代わりをすすめてくれたウェイトレスに対して客は“*Thank you*.”（ありがとう）と応えてから“I'm just fine.”（もう十分です）と続けている。このThank you.は相手からの申し出を断ることを示すことばであり，No thank you.（いいえ，結構です）と同じ内容を表している。

Thank you.は［ex.6］(2)のように相手の申し出を受け入れることを示す応答としても，［ex.7］(2)のように相手の申し出を断ることを示す応答としても使われることがある。Thank you.によってどちらの意思が示されているかは，話し手の表情や態度，I'm just fine.などの添えられることばなどによって判断される。

相手からの申し出を断るときにはNo thank you.が使われることもある。ただし，否定的なNo thank you.には相手からの申し出をはっきりと断る直接的な響きがあるため，No thank you.とひとこと言うだけではかなり不愛想な返事になることもある。一方，相手の申し出を断るときでも肯定的なThank you.を使えば，間接的に否定的な意

志を伝えることになり，やわらかく優しい受け答えをしていることになる。

次の［ref.14］では感謝の気持ちを表す(1)①から⑥が［ex.7］(2)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。

［ref.14］Thank you.やThanks.などの使用の可否(7)
［コーヒーのおかわりの申し出を断る場合］
①○ “*Thank you*. I'm just fine.”
②× “*Thank you very much*. I'm just fine.”
③× “*Thank you so much*. I'm just fine.”
④○ “*Thanks*. I'm just fine.”
⑤× “*Thanks a lot*. I'm just fine.”
⑥× “*Kyu*. I'm just fine.”
コーヒーのおかわりの申し出を断るときには，軽い響きのあるThank you./ Thanks.が使われることはあるが，強い響きのあるThank you very much./ Thank you so much./ Thanks a lot.が使われることはない。これは強い響きのある感謝のことばでは言外に否定的な意志が含まれるように感じられないためである。また，Kyu.は陽気で肯定的な響きがあるため，コーヒーのおかわりの申し出を断るときに使われることは一般にない。

［ex.8］警察官が事件現場に集まってきた一般市民に口頭で指示を伝えているところ。
警察官：(1) “Won't you keep behind this line, please? *Thank you* for your cooperation.”
「どうか線の内側に入らないようにしてください。ご協力に感謝します」

［ex.8］(1)で警察官は事故現場に集まってきた一般市民に対して口頭で白線の内側に入らないように注意している。この警察官は“*Thank you* for your cooperation.”（ご協力に感謝します）と言っているが，この発話の時点で周囲にいる一般市民はまだ警察官の指示に従ってない。したがって，この警察官はThank you.で相手の行った行為に関する感謝の気持ちを伝えているのではなく，相手の行動を先取りするように“*Thank you* for your cooperation.”（ご協力に感謝します）と言っていることになる。

このThank you.は相手への感謝の気持ちを込めながら相手への指示を伝えることばである。「どうかお願いします」のように話し手の要求をやわらかく伝える役割を果たしているが，拒むことを許さないような強い響きも含まれている。これは相手が自分の指示に従って行動することを前提としてThank you.と言っているように聞こえるためである。

次の［ref.15］では感謝の気持ちを表す(1)①から⑥が［ex.8］(1)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。

［ref.15］Thank you.やThanks.などの使用の可否(8)
［警察官が口頭で一般市民に指示を伝える場合］
①○ “*Thank you* for your cooperation.”
警察官が一般市民に指示を伝える場合には正式な感謝のことばであるThank you.が使われる。
②× “*Thank you very much* for your cooperation.”
口頭では警察官がThank you very much.で一般市民に指示を伝えることは一般にない[6]。
③× “*Thank you* so much for your cooperation.”
［ex.8］(1)で警察官は一般市民に冷静に指示を伝えている。ここでThank you so much.を使うのは感情的すぎる。
④× “*Thanks* for your cooperation.”
⑤× “*Thanks a lot* for your cooperation.”
⑥× “*Kyu* for your cooperation.”
警察官が一般市民に指示を伝えることばとしてThanks./ Thanks a lot./ Kyu.は軽すぎる。

［ex.9］JackとTerryは親しい友人同士。Jackが誤ってコーヒーの入っていたカップを倒してしまい，隣に座っていたTerryの服を汚してしまったところ。
Jack：(1) “Oh, sorry, Terry.”
「ああ，ごめん，テリー」
Terry：(2) “Oh, *thank you very much,* Jack.”
「どうもありがとう，ジャック」
Jack：(3) “*You are welcome*. Would you like me to do that again?”
「どういたしまして。もう一度やってあげようか」

［ex.9］(1)で誤ってコーヒーをこぼしてしまったJackはTerryに“Oh, sorry, Terry.”（ああ，ごめん，テリー）と言ってわびている。これに対して［ex.9］(2)でズボンを汚されたTerryは“Oh, *thank you very much*, Jack.”（どうもありがとう，ジャック）と言っている。Jackが使っているI'm sorry.は謝罪のことばであり，Terryの使っているThank you very much.は感謝のことばである。このような表面的な意味から考えれば，JackとTerryの会話はかみ合っていないようにも聞こえるが，ここではThank you very much.とYou are welcome.が本来の意味と反対の意味を表す皮肉として使われている。

本来Thank you very much.は「どうもありがとうございます」という相手への強い感謝を表す正式なことばである。これは礼儀正しいことばであるだけに，［ex.9］(2)のような状況で皮肉として使われると感謝とは反対の意味，つまり，「なんというひどいことをしてくれたんだ！」という相手への強い非難を表すことになる。

また，［ex.9］(3)でJackは“*You are welcome*. Would you like me to do that again?”（どういたしまして。もう一度やってもらいたい？）と言っている。この言い方も丁

寧な言い方だけに，いっそうきつい皮肉と冗談が含意される。このような辛辣なやり取りはごく親しい友人同士の間だけで許される一種のことば遊びである。

次の［ref.16］では感謝の気持ちを表す［ref.1］の①から⑥が［ex.9］(2)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。また，次の［ref.17］では応答の［ref.2］の①から⑫が［ex.9］(3)で使われた場合に自然な表現となるのか否かを検証する。

［ref.16］Thank you.やThanks.などの使用の可否(9)
［親しい友人を強く非難する皮肉として使われる場合］
①○ “Oh, *thank you*, Terry.”
②○ “Oh, *thank you very much*, Terry.”
③○ “Oh, *thank you so much*, Terry.”
④○ “Oh, *thanks*, Terry.”
⑤○ “Oh, *thanks a lot*, Terry.”
⑥× “Oh, *kyu*, Terry.”
Thank you./ Thank you very much./ Thank you so much./ Thanks./ Thanks a lot.はいずれも皮肉として使われることがある。特に強い感謝を表すThank you very much.は強い皮肉になる。Kyu.は陽気で肯定的な響きがあるため皮肉にはならない。

［ref.17］You are welcome.などの使用の可否(6)
［親しい友人からの皮肉に応える場合］
①○ “*You are welcome*. Would you like me to do that again?”
②○ “*My pleasure*. Would you like me to do that again?”
③○ “*The pleasure is mine*. Would you like me to do that again?”
④○ “*Not at all*. Would you like me to do that again?”
⑤○ “*Don't mention it*. Would you like me to do that again?”
⑥○ “*That's all right*. Would you like me to do that again?”
⑦○ “*Anytime*. Would you like me to do that again?”
⑧○ “*No problem*. Would you like me to do that again?”
⑨○ “*Sure*. Would you like me to do that again?”
⑩○ “*Certainly*. Would you like me to do that again?”
⑪○ “*Uh-huh*. Would you like me to do that again?”
親しい友人から感謝のことばを使って皮肉を言われたときにはYou are welcome./ My pleasure./ The pleasure is mine./ Not at all./ Don't mention it./ That's all right./ Anytime./ No problem./ Sure./ Certainly./ Uh-huh./ Thank you.を使って皮肉を込めた応答をすることがある。特にpleasureを含むMy pleasure./ The pleasure is mine.は相手に迷惑をかけたことがpleasure（喜び）であると聞こえるため，きつい皮肉になる
⑫× “*Thank you*. Would you like me to do that again?”
［ex.8］(3)のような状況で皮肉として「(こちらこそ) Thank you（ありがとうございます)」と言うのは不自然。

ここまで具体的な事例を見ながら感謝のことば①Thank you./ ②Thank you very much./ ③Thank you so much./ ④Thanks./ ⑤Thanks a lot./ ⑥Kyu.とその応答①You are welcome./ ②My pleasure./ ③The pleasure is mine./ ④Not at all./ ⑤Don't mention it./ ⑥That's all right./ ⑦Anytime./ ⑧No problem./ ⑨Sure./ ⑩Certainly./ ⑪Uh-huh./ ⑫Thank you.がどのような状況で使われるのかを検証してきた。以下の［ref.18］から［ref.23］にそれぞれが使われる状況についてまとめる。

［ref.18］Thank you.が使われる状況
(1)基本的に［ex.1］(5)，［ex.5］(2)，［ex.6］(2)，［ex.7］(2)のような状況で軽い感謝の気持ちを表すときに使われる。
(2)正式な感謝のことばであるため，［ex.3］(5)のような状況で家族や親しい友人に対して使えば，話し手の言い方や表情などによっては強い感謝の気持ちが伝わることもある。
(3)正式でありながらも軽い響きがあるため，感謝の意味から離れて使われることもある。例えば，［ex.6］(2)や［ex.7］(2)のように相手からの申し出を受け入れるときや断るとき，［ex.8］(1)のように相手に行動を求めるとき，［ex.9］(2)のように皮肉として相手を非難するときなどに使われることがある。

［ref.19］Thank you very much.が使われる状況
(1)大きな感謝を表す正式なことばであるため，［ex.2］(8)のように目上の人などに礼儀正しく大きな感謝を表すときに使われる。
(2)［ex.5］(2)のように相手が店の店員など親しいつき合いのない他人である場合には，礼儀正しく軽い感謝の気持ちを伝えたいときに使われることもある。
(3)かたい響きがあるため，家族や親しい友人に対して使われることは比較的少ないが，［ex.4］(4)のような状況であらたまって深い感謝の気持ちを表すときには親しい友人に対して使われることもある。
(4)強い感謝の表すため，［ex.9］(2)のような状況で皮肉として使われると，特に強い非難を表すことになる。

［ref.20］Thank you so much.が使われる状況
(1)感情的で強い響きがあるため，基本的に［ex.3］(5)や［ex.4］(4)のように感謝の気持ちを強調して伝え

るときに使われる。
(2)［ex.3］(5)や［ex.4］(4)のように女性によって使われることが多い。
(3)強い感謝の気持ちが込められているため，［ex.9］(2)のような状況で皮肉として使われることもある。

［ref.21］Thanks.が使われる状況
(1)Thank you.と同じように基本的に［ex.1］(1)，［ex.5］(2)，［ex.6］(2)，［ex.7］(2)のような状況で軽い感謝を表すときに使われる。
(2)Thank you.にない親しみがあるため，［ex.1］(5)や［ex.3］(5)や［ex.4］(4)のように相手が家族や親しい友人のときにはThank you.よりも使われることが多い。また，［ex.5］(2)や［ex.6］(2)のように相手が親しいつき合いのない他人などである場合でも親しみを込めて使われることがある。
(3)軽い響きがあるため，感謝の気持ちを表すことから離れて［ex.7］(2)や［ex.8］(2)のように相手からの申し出を受け入れるときや断るときに使われることもある。

［ref.22］Thanks a lot.が使われる状況
(1)［ex.4］(4)のようにあらたまって親しい友人などに大きな感謝の気持ちを伝えるときに使われる。
(2)［ex.5］(2)のように相手が店の店員など親しい関係にない他人である場合には軽い感謝の気持ちをThanks a lot.で表すこともある。
(3)強い感謝の気持ちが込められているため，［ex.9］(2)のような状況で皮肉として使われることもある。

［ref.23］Kyu.が使われる状況
(1)基本的に［ex.5］(2)や［ex.6］(2)のように軽い感謝の気持ちを込めて使われる。
(2)［ex.5］(2)や［ex.6］(2)のようにKyu.の一言で使われ，“Oh!”のような間投詞や“Tom”相手への呼びかけなどの他の語句とともに使われることはない。

3．That's kind of you.やYou are kind.など

感謝の気持ちを伝えるとき(3)①That's kind of you./ ②That's nice of you./ ③That's sweet of you.や④You are kind./ ⑤You are nice./ ⑥You are sweet.が使われることがある[7]。(3)①*That's* kind of you./ ②*That's* nice of you./ ③*That's* sweet of you.と(3)④*You are* kind./ ⑤*You are* nice./ ⑥*You are* sweet.で用いられている“That's ～”という形態で“You are ～”という形態にはどのようなニュアンスの違いがあるのだろうか。また，感謝の気持ちを伝える(3)①から⑥はそれぞれThat's *so* kind of you./ That's *really* kind of you./ That's *very* kind of you.のようにso/ really/ veryによって強調されることがあるが，この3つの副詞にはどのようなニュアンスの違いがあるのだろうか。さらに，(3)①That's *kind* of you./ ④You are *kind*.と(3)②That's *nice* of you./ ⑤You are *nice*.と(3)③That's *sweet* of you./ ⑥You are *sweet*.で用いられる3つの形容詞kind/ nice/ sweetにはどのようなニュアンスの違いがあるのだろうか。

まず，“That's ～”と“You are ～”という形態のニュアンスの違いについて考えてみる。

“That's ～”を用いる(3)①*That's* so kind of you./②*That's* so nice of you./③*That's* so sweet of you.はthat（それ）を主語としている。したがって，これらは「that（それ）に関してあなたは親切だ」のようにthatという具体的な一つの事柄について述べていることになる。

一方，“You are ～”を用いる(3)④*You are* so kind./⑤*You are* so nice./⑥*You are* so sweet.はyouを主語としている。したがって，「you（あなた）は親切だ」のようにyouという「相手」の全般的な性格について述べていることになる。

次の［ex.10］では感謝の気持ちを込めて妻がThat's so kind of you.を使っているが，ここでは同じ感謝の気持ちを込めて妻がYou are kind.を使うこともある。

［ex.10］夫婦の自宅での会話。夫が妻にいつもはやっていない家事と洗濯をすることを告げているところ。
夫：(1)“Linda, I'll do the vacuuming and washing for you today.”
「リンダ，今日は僕が掃除と洗濯をするよ」
妻：(2)“Oh, that's so kind of you, George. What's happened?”
「あら，ありがとう，ジョージ。どういうことなの」
夫：(3)“Well, you look so busy today. I just feel like helping you around the house.”
「君が今日はとても忙しそうだからだよ。家事をちょっと手伝いたいなって思ったんだ」

［ex.10］(2)で妻のために家事を行うと言った夫に妻は“Oh, *that's so kind of you*, George.”と言っている。このように相手への感謝の気持ちがThat's kind of you.で表されることがある。

［ex.10］(2)の*That's* so kind of you.のthatは夫が家事を行うことを指している。したがって，妻はthat（家事を行うこと）に関してyou（夫）がkind（親切で）あると言っていることになる。［ex.10］(2)で妻がThat's kind of you.の代わりにYou so kind.を使った場合には，家事を行うことを申し出ているyou（夫）の性格がkind（親切で）あると言っていることになる。

今度は(3)①から⑥で感謝の気持ちを強調するときに使われる副詞so/ really/ veryの違いについて考えてみる。

［ex.10］(2)の“Oh, *that's so kind of you*, George.”ように，

特に口語ではThat's kind of you.がsoで強調されることが多い。これは特にsoにやわらかく感情的な響きがあるためである。

That's *really* kind of you.のように感謝の気持ちがreallyで強調されることもある。このreallyもsoと同じようにやわらかい響きがあるため，口語での多く使われる。

soとreallyを比べるとsoの方がより感情的で強い響きがある。また，That's *really* kind of you.は男女のどちらにも同じように使われるが，That's *so* kind of you.は男性よりも女性によって使われることが多い。このようにやわらかく感情的で女性によって多く用いられる点でThat's *so* kind of you.はThank you *so* much.に似た特徴を持つと言える。

That's *very* kind of you.のように感謝の気持ちがveryで強調されることもある。このThat's *very* kind of you.はsoを用いるThat's *so* kind of you.やreallyを用いるThat's *really* kind of you.よりもずっと冷静でかたい響きがある。この点でThat's *very* kind of you.はThank you *very* much.に似た特徴を持つと言える。

(3)①That's kind of you.と同様に(3)②That's nice of you./ ③That's sweet of you./ ④You are kind./ ⑤You are nice./ ⑥You are sweet.もso/ really/ veryで強調されることがある。この場合のそれぞれのニュアンスの違いは上で述べたThat's *so* kind of you./ That's *really* kind of you./ That's *very* kind of you.の違いと同じである。

最後に(3)①から⑥で使われる３つの形容詞kind/ nice/ sweetのニュアンスの違いについて考えてみる。

［ex.11］LucyとTomは親しい友人同士。TomがLucyの財布を見つけて，Lucyに渡しているところ。

Tom：(1) "Lucy, is this yours?"
（ルーシーに財布を差し出しながら）「ルーシー，これ，君のだよね」

Lucy：(2) "Oh, yes, that's my purse. I've been looking for it. Where was it?"
「あら，そうよ，私の財布だわ。探してたの。どこにあったの」

Tom：(3) "I found it on your chair in the classroom. I thought it must be yours."
「教室の君が座っていた椅子の上にあったんだ。君のものにちがいないと思ったんだ」

Lucy：(4) "Thank you, Tom. *You are so kind!*"
「ありがとう，トム。本当にありがとう」

［ex.11］(4)で自分の財布を見つけてくれたTomにLucyは"Thank you, Tom. *You are so kind!*"と言っている。このYou are so kind.にはLucyのTomに対する強い感謝の気持ちが込められている。［ex.11］(4)でLucyがYou are so kind.の代わりにYou are so nice.やYou are so sweet.を使うことも考えられる。この場合，強い感謝の気持ちが込められる点で違いはないが，表されている内容には微妙な相違がある。

You are *kind.*のkindには「親切な」という意味がある。この内容から考えればkindには「特定の個人に対して思いやりや配慮を持つ」ということを含意していることになる。一方，You are *nice.*のniceには「よい」という意味がある。この内容から考えれば「誰に対してもよいことを行う道徳的な気質がある」ということを含意していることになる。したがって，a kind person（親切な人）がa nice person（よい人）と同じにはならない場合もありうる。

例えば，麻薬の売買を行っているマフィアのボスは自分の仲間にとってはa kind person（親切な人）であると言えるが，自分の仲間以外の人たちにとってはa kind person（親切な人）であるとは言えない。つまり，麻薬の売買という非道徳的で反社会的な行為を行っているため，そのようなマフィアのボスは誰にとってもa nice person（よい人）であるとは言うことはできない。

また，kind（親切な）には主観的な響きがあり，nice（よい）には客観的な響きがある。したがって，You are *kind.*と言う場合には個人的な経験に基づいてyou（相手）がkind（親切だ）と言っていることが含意され，You are *nice.*と言う場合には漠然とした印象からyou（相手）がnice（いい）と言っていることが含意されることになる。この点でYou are *kind.*にはより感情的で強い響きがあり，You are *nice.*はより表面的で軽い響きがあることになる[8]。

このようにYou are *kind.*はYou are *nice.*よりも感情的で強い響きがあるが，You are *sweet.*はYou are *kind.*よりもさらに感情的で強い響きがある。また，You are *sweet.*は特に女性によってよく用いられる。これはYou are *sweet.*のsweetに強い感情を込めて使われる日本語「かわいい」に似た響きがあるためであるとも考えられる。したがって，You are *sweet.*は大人に対して使われるときでも，子供に対して抱くような思いやりや親しみが込められる。

以上で述べた(3)④You are kind./ ⑤You are *nice.*/ ⑥You are *sweet.*におけるkind/ nice/ sweetの違いは(3)①That's *kind* of you./ ②That's *nice* of you./ ③That's *sweet* of you.におけるkind/ nice/ sweetの違いにも当てはまる。

4．I really appreciate it.

強い感謝の気持ちを(3)①I really appreciate it.で表すことがある[9]。Thank you./ Thanks.などと比べればかたい響きはあるが，I really appreciate it.は日常の会話でよく用いられる口語表現である（元々はI really appreciate it.はアメリカ英語で多く使われていたが，現代ではイギリス英語でも一般に使われるようになってきている）。このI really appreciate it.にはどのようなニュアンスがあるのだろうか。また，I really appreciate it.はしばしば他の感謝のことばと共に使われることがあるが，この場合にはどのような気持ちが込められることになるのだろうか。

I really appreciate it.は相手へのthank（感謝）の気持ち

だけでなく相手が話し手のためにしてくれた行為へのunderstanding（理解）を伝える意味ことばである。これはappreciateに次の（a）のように問題や状況の重要性や価値を十分にunderstand（理解している）という意味と次の（b）のように相手がやってくれる行為などに関してgrateful（感謝している）という意味があるためである。

（a）We had not yet fully *appreciated* how serious the situation was.
（私たちは状況がどれほど深刻なものなのかまだ十分に理解していなかった）

（b）I would *appreciate* it if you would give me a hand.
（私を手伝っていただければ感謝いたします）

また，英語を母語としない者は相手への強い感謝の気持ちを表すとき，“Thank you. Thank you.”などと同じことばばかりを繰り返すことがあるが，これでは幼い子供のような話し方になってしまう。英語を母語とする者が強い感謝を表すときには，同じ感謝を意味することばでも言い方を変えて多角的に感謝の気持ちを伝えるようにすることが多い。この場合，次の［ex.11］のLucyのようにThank you so much.やYou are so kind.などとともにI really appreciate it.が使われることがしばしばある。。

［ex.12］TomがLucyに誕生日のプレゼントを渡しているところ。TomとLucyは親しい友人同士。

Tom：(1) “Happy birthday, Lucy. This is for you.”
（Tomにプレゼントを差し出しながら）「お誕生日，おめでとう，ルーシー。これは君へのプレゼントだよ」

Lucy：(2) “Really?”
「本当に？」

Tom：(3) “It's just a little something.”
「たいしたものじゃないんだ」

Lucy：(4) “*Thank you so much*, Tom.”
「どうもありがとう，トム」

Tom：(5) “I hope you like it.”
「気に入ってくれるといいけれど」

Lucy：(6) “Oh, it's a bag. *You're so sweet.*”
（プレゼントの包みを開けてから）「あら，バッグね。ありがとう」

Tom：(7) “Well, you said you wanted one before.”
「うん，以前ほしいって言っていたよね」

Lucy：(8) “Yes. *I really appreciate it.*”
「うん。本当にどうもありがとう」

誕生日のプレゼントをくれたTomにLucyは［ex.12］(4)で“*Thank you so much*, Tom.”と言っている。このThank you so much.はyou（相手）にthank（感謝）の気持ちを直接伝える表現である。ここには誕生日のプレゼントをもらった瞬間の大きな感謝の気持ちが込められている。

また，“It's a bag.”（かばんだよ）と言ったTomに対してLucyは［ex.12］(6)で“Oh, *you're so sweet.*”と言っている。このYou are so sweet.はyou（相手）がsweet（親切で）あると言うことによって間接的に感謝の気持ちを伝える表現である。

さらに，“You said you wanted one before.”（以前ほしいって言っていたよね）というTomに対してLucyは［ex.12］(8)で“*I really appreciate it.*”と言っている。

［ex.12］(8)で用いられているI really appreciate it.のitはTomがLucyの気持ちを考えて誕生日のプレゼントとしてかばんをくれたことを指す。したがって，［ex.12］(8)でLucyはTomにit（TomがLucyの気持ちを考えて誕生日のプレゼントとしてかばんをくれたこと）のありがたさや価値についてunderstand（理解している）ことを伝えながら「I（私は）it（あなたが私のためにしてくれたことを）really（本当に）appreciate（感謝している）」と言っていることになる。

［ex.12］でLucyはThank you so much.とYou are sweet.とI really appreciate it.という同じ感謝を表すことばを3回続けていることになる。このように，Thank you so much./ You are so kind.などと組み合わせて意味深いI really appreciate it.を使えば，細やかな感謝の気持ちを具体的に伝えることになる。

5．終　わ　り　に

本稿の第2章では(1)①Thank you./②Thank you very much./③Thank you so much./④Thanks./⑤Thanks a lot./⑥Kyu.の相違を検証した。その検証からわかったそれぞれの性質をまとめると以下の6点になる。

［1］(1)①Thank you.は正式な感謝のことばである。ただし，比較的軽い響きがあるため，親しいつき合いをしていない他人に対してだけでなく親しい友人や家族に対しても使われることも多い。

［2］(1)②Thank you very much.は正式な感謝のことばであり，かたくあらたまった響きがある。したがって，自分の家族に対してThank you very much.と言う状況は考えにくい。また，親しい友人にThank you very much.と言えば，特にあらたまって強い感謝の気持ちを伝えていることになる。

［3］(1)③Thank you so much.は(1)②Thank you very much.と同じように感謝の気持ちを強調する表現である。ただし，(1)②Thank you very much.にない親しみとやわらかさがあり，特に女性によって使われることが多い。

［4］略式の(1)④Thanks.には(1)①Thank you.よりも軽い響きがある。親しい友人や家族に対して使われることが多いが，親しみを込めて他人に対して使われることもある。

［5］(1)⑤Thanks a lot.は(1)④Thanks.に似た親しみがある一方，(1)④Thanks.にない落ち着きがある。したがって，特に親しい友人などに対してあらたまって感謝を表すときに使われる。

［6］Thank you.の略語である(1)⑤Kyu.は軽い感謝を表すときに使われる。Kyu.という一言で用いられ，相手の名前の呼びかけなど他の語句とに用いられることはない。

本稿の第3章では(2)①That's kind of you./②That's nice of you./③That's sweet of you.と④You are kind./⑤You are nice./⑥You are sweet.の相違を検証した。その検証からわかったことは以下の2点にまとめられる。

［7］“That is ～”を用いる①*That's* kind of you./ ②*That's* nice of you./ ③*That's* sweet of you.は具体的な一つの事柄であるthat（それ）についての評価を表す。一方，“You are ～”を用いる④*You* are kind./ ⑤*You* are nice./ ⑥*You* are sweet.はyou（相手）の全般的な性格についての評価を表している。

［8］kindを用いる(2)①That's *kind* of you./ ④You are *kind*.は「特定の個人に対して親切である」という話し手の経験に基づく主観的な判断を表す。一方，niceを用いる(2)②That's *nice* of you./ ⑤You are *nice*.は「道徳的で誰に対してもよい」という話し手の印象に基づく客観的な判断を表す。また，sweetを用いる(3)③That's *sweet* of you./ ⑥You are *sweet*.は日本語の「かわいい」に似た子供に対するような強い思いやりや親しみを込めて使われる。

本稿で第3章では(3)①I really appreciate it.が話し手のために行ってくれた行為に対する理解を込めた感謝のことばであることが検証された。また，Thank you very much.やYou are so kind.など他の感謝のことばと共にI really appreciate it.が使われれば，より深い感謝の気持ちが重層的に伝わることが検証された。

注　　釈

1）「口語英語研究（1）人名及び人名相当語句の使用に関して」（日本獣医生命科学大学研究報告No 58），「口語英語研究（2）人と会ったときの挨拶表現に関して」（日本獣医生命科学大学研究報告No 59），「口語英語研究（3）ChristmasやNew Yearに関わる表現及びNice to meet you.やNice meeting youなどの挨拶表現に関して」（日本獣医生命科学大学研究報告No 60），「口語英語研究（4）別れの挨拶」（日本獣医生命科学大学研究報告No 61）を参照。

2）thanksを用いて感謝を表す慣用表現にMany thanks.もある。これはThanks.やThanks a lot.よりもずっとかたい響きがあり，主に手紙などの文書で使われる。

3）Sure./ Certainly./ Uh-huhはいずれもyesと同じ意味で使われる。この場合も，Uh-huh.が最もくだけた応答になり，Certainly.が最もかたい応答になる。例えば，ウェイターがレストランにやってきた客に返事をするとき“Certainly, sir.”と言うことがあるが，このCertainly.にはかたい響きがある。

4）自分の方から感謝の気持ちをThank you.で表すときには，thankに強勢を置いて発音する場合もあれば，youに強勢を置いて発音する場合もある。前者では「あなたにthank（とても感謝しています）」というニュアンスになり，後者では「you（他の誰でもなくあなた）に感謝しています」というニュアンスになる。

5）離れて暮らす夫婦が手紙やメールなどであらたまって感謝の気持ちを伝える場合なら，夫婦の間でもThanks a lot.が使われることがある。例えば，単身赴任のために妻と離れた場所に住んでいる夫が妻に誕生日のプレゼントを贈った場合には，妻がメールで次のように言うことも考えられる。“*Thanks a lot* for the card and the present today, Steve. I thought you had forgotten my birthday.”（今日はカードと贈り物をどうもありがとう。あなたは私の誕生日を忘れていると思っていたわ）

6）目の前にいる一般の人たちに話しかける場合にはThank you very much.で指示を伝えることはないが，文語や放送などでは一般の人たちにThank you very much.で指示を伝えることはある。例えば，喫煙エリアを示す掲示板に次のように書かれていることがある。“Please refrain from smoking in this area. *Thank you very much* for your cooperation.”（このエリアでは喫煙をお控えください。ご協力に大変感謝いたします）

7）感謝の気持ちを“It is ～ of you to do”という形態のIt is kind of you to do/ It is nice of you to do/ It is sweet of you to doで表すこともある。これらは“That's ～”という形態の①That's so kind of you./ ②That's so nice of you./ ③That's so sweet of you.や“You are ～”という形態の④You are so kind./ ⑤You are so nice./ ⑥You are so sweet.よりも落ち着いた冷静な響きがあり，主に手紙などの書きことばで使われる。例えば，手紙で次のように礼を述べることがある。“*It was so kind of you to* drive me home the other day.”（先日は家まで車で送っていただいてありがとうございました）

8）That's kind of you./ That's nice of you./ That's sweet of you.に似た感謝を表すことばにThat's *good* of you.もある。このThat's *good* of you.のgoodは個人的な経験に基づいた話し手の意見を伝えている点でYou are *kind*.のkindに似ているが，一般的にgood（いい）という意味を表している点ではThat's nice of you.のniceにも似ている。このgoodとniceの違いに関しては「口語英語研究（3）ChristmasやNew Yearに関わる表現及びNice to meet you.やNice meeting you.などの挨拶表現に関

して」（日本獣医生命科学大学研究報告No 60）の第２章を参照。

9） I really appreciate it.はI appreciate it.の強調表現である。日常会話ではI really appreciate it.が使われることが多いため，本論ではI really appreciate it.という表現について論じることにした。

参 考 文 献

- 英文法シリーズ（1976），研究社
- 英語語法大辞典（1966），大修館
- 新英文法辞典（1970），三省堂
- 現代英文法辞典（1992），三省堂
- Longman Dictionary of American English（1983），Pearson Education Limited
- Collins Cobuild English Language Dictionary（1987），Collins Sons & Co Ltd
- Oxford Advanced Learner's Dictionary（2000），Oxford University Press

---

Study of Colloquial English (5)：Concerning Expressions Showing Gratitude

Mitsuru KIDO / Stuart J. SANDERSON

Division of the English Language, Nippon Veterinary and Life Science University

Abstract

This article is a study on colloquial English expressions which show the speaker's gratitude：such as (a) Thank you./ Thank you very much./ Thank you so much./ Thanks./ Thanks a lot./ Kyu.；(b) That's kind of you./ That's nice of you./ That's sweet of you./ You are kind./ You are nice./ You are sweet.；(c) I really appreciate it. As in Studies of Colloquial English (1) (2) (3) (4), this study, based on discussion between native speakers of English and Japanese, analyzes in what situations those colloquial expressions above are used[1].

Key words：Thank you./ You are kind./ I really appreciate it.

Bull. Nippon Vet. Life Sci. Univ., **62**, 106-119, 2013.